

# 9月14日は鶴彬・80年目の命日

「和」川柳社会報 六七二

定例会 二〇一八年九月二四日(月)

定例会 於…金沢市金石町

9月の秀句  
歴史から学ばぬ愚者の作る国  
遠田亀公子  
寺内徹乗



分骨・建立された墓碑の前で式典（浄専寺にて）

詳細は  
6頁に

## 鶴彬分骨墓碑建立記念式 碑前祭や講演会も開催

明治維新 150 年。安倍政権は今年を特別意識し、様々な式典を計画しているが、昨今の大きな動きは教科書の書き換え。大陸侵略など血の歴史を隠し、歴史を知らぬ若者を作る。これは最近の若者の保守化として現れている。「和」同人の危機意識が2つの句を推薦した。(周)

**お知らせ**

10月例会 10月22日(月)  
投稿締切 20日(土)  
課題「実」 3句以内  
自由吟 5句以内  
自選句、自解筆もぜひよろしく。

◆ 目次

川柳互選  
課題吟「史・歴史」…………… 2  
自由吟…………… 3  
自選一連作…………… 4  
寸評 岩原茂明…………… 6  
【報告】9・14の取りくみ 寺内徹乗…………… 6  
プロレタリア文学考察の盲点 周立東爺…………… 12  
「在ソ三年 生と死のドラマ」…………… 14  
報告・後記…………… 16

9月の  
川柳互選

◆ 課題吟 「史・歴史」

(互選) 一人3句吐

3	抑圧と侵略の明治から百五十年	徹乗
3	権力に背いて一揆無言の碑	亀公子
2	付度を歴史に残ししゃあしやあと	ダン吉
2	新内閣正直公正のお歴々	白真弓
2	日本の歴史歪める安倍汚点	林
2	後世の歴史家などと侵略史	ダン吉
2	沖繩の歴史を一顧だにしない	ダン吉
2	終戦日 歌える人の もどかしさ	広助
1	一五〇年地球儀真つ赤に染めてきた	立東爺
1	ナオミ行く歴史ぬりかえ我々も	和子
	歴史ある貨客列車で北海道	一角
	アベ政権歴史研究好材料	白真弓
	親恋史時経るほどに強くなり	未知子

3	今日もまた政府都合の歴史刻む	白真弓
4	改憲を 歴史に残す 狂気沙汰	広助
4	憲法を 歪め許さぬ 現代史	宏
4	アベ史観「明治」を称えし いくさ道	宏
4	安倍去れよ歴史戻すな手をつなごう	和子
5	沖繩を素通りしました現代史	立東爺
5	終戦日 暑い夏空 忘れない	広助
5	大嘘で史実歪める岸の孫	林
5	圧政の歴史捲ればしたたる血	亀公子
5	根腐れを倒す歴史に参加中	一角
5	沖繩史知れば知るほど悲 <sup>ひ</sup> 怒 <sup>ど</sup> 怒 <sup>ど</sup>	未知子
6	心地よい嘘偽りの皇国史	徹乗
6	自分史に改憲拒否の句を記す <sup>しる</sup>	立東爺
7	虐殺の史実消し去る改訂版	亀公子
8	歴史から学ばぬ愚者の作る国	徹乗

◆自由吟（互選）一人5句以内

1	アメリカ悪代官世界中から関税取り上げる	大峰
1	ブラックアウト人災にしてボンコツ直して居る	大峰
1	デニーさん 新基地阻止へ 全日本で	宏
1	億で足らず京が並ぶ除去単位	立東爺
1	武器を買いますアメリカの犬	徹乗
1	両陣営翁長後継叫ぶ怪	白真弓
1	のほほんで生きたと隙のない男	ダン吉
1	Jアフト鳴りをひそめてキョロキョロ目	白真弓
1	辺野古では友が走って俺投書	一角
1	三選後すぐに始まる秒読み	林
1	三選は付度多し自墮落さ	和子
1	日本人拉致 誰一人返さぬ安倍外交	大峰
1	嘘つきは安倍総理でたくさんだ	和子
1	お地蔵さん怒るつぶやき話さぬか	立東爺
1	社会保障下げ軍事費上げるは何処の人	未知子
1	友誘い今日も元気にクリニツク	未知子

1	能天気居丈高ではない勝負	ダン吉
1	好物は人間ですと言っている	ダン吉
2	面舵を取ることを以外知らぬ人	林
2	こんな人たちに街頭演説聞かせない	徹乗
2	残された希望は一つ自爆のみ	白真弓
2	気の抜けた議会へ傍聴席のヤジ	亀公子
2	あり得ないブラックアウト 蝦夷の地よ	宏
2	熟年の声聴いてよ若い衆改憲ノー	未知子
2	黒い腹三人で見せ合う四島売り	大峰
2	自衛隊 武器を捨てれば 復興隊	広助
2	積み捨ての除染袋から出る異臭	亀公子
2	日が暮れる汗流したか自問する	ダン吉
2	戦争の 真実ねじ曲げ 政権に	広助
2	北海道コンビニジャック安倍バナナ	白真弓
3	経産省 改ざん隠蔽 骨抜きに	宏
3	一度でも金委員長に会ったかい	一角
3	権力を嵩 <small>かさ</small> に脅しと飴のムチ	亀公子

3	翁長知事地を這つてまで止めた人	和子
3	受験には現代教えぬその結果	立東爺
3	守るもの子どもに地球そして夫 <small>つま</small>	未知子
3	原爆忌 平和希求ぞ 九条なり	宏
3	憎まれて尚憎まれて二期六年	林
3	街角で不戦を語る女たち	一角
3	国民にパワハラ働くアベ政治	林
3	嘘つきが嘘つかないと大嘘を	一角
3	五輪ボケそこを狙えと改憲派	徹乗
4	再稼働 民意蹴ちらす アベ政府	宏
4	白頭山融和ムードで共に行く <small>ベクト</small>	和子
4	民意捨て 安倍に寄り添う 自民劇	広助
4	ロシアとはペコペコしての待ちぼうけ	一角
4	月旅行六百億円飢餓苦の子ども六億人	未知子
4	しっかりせい縮む歩幅を叱咤する	ダン吉
4	ブラックアウト次は原発と決めて居る	大峰
5	根室から北の島々遠ざかる	林

5	使い捨て実習生が埋める穴	亀公子
5	凡庸な役人たちがアベ支え	白真弓
5	汚染ノ一築地の女将 <small>おかみ</small> がっちり	和子
5	イエスだけ答える為に海を越え	立東爺
5	人柱 何本立つても続く人災	立東爺
6	改憲だ！ 踏みつけてきた憲法を	徹乗
6	侵略軍を手伝う専守防衛軍	徹乗
6	石破氏がまともに見える秋の空	白真弓
	× × ×	

今回の自民党の総裁選挙。実に不思議であった。あれだけ国民から総スカン状態の安倍総裁と対抗馬の石破候補。同じ改憲を目指すムジナ同士の闘いに、なぜか石破が清潔な候補に見えてくる。もし石破が勝っていたら、もつと巧妙に改憲を迫られたかもしれない。国会議員票と地方票の乖離もあきらかになった。そして国民は泥沼で身動きがとれない。(周)

今月の  
自選連作

◆ 闘病句 白真弓

やんわりと治療終了申し出る  
論文にならない患者それなりに  
論文の対象外れ興味なし  
疲れても昼寝この世に引き戻す

◆ 自選句 中野林

プーチンに舐められながら苦笑い  
鐘ひとつアベの沈黙恥ずかしい  
苦笑いしつつ大破の安倍外交  
保護費下げ生活破壊する政治  
官邸に人権知らずが棲みついて  
基地被害さらに拡げる「自希公維」  
岸の孫憲法いじりの悪い癖



突然ですが、沖縄知事選の結果です。  
当選：玉城デニー 396632  
佐喜真 淳 316458  
2018.9.30 (確定)

戦時下の国家づくりの下心

「モリカケ」が嘘を噴き出す震源地

丁寧に改憲伝えるNHK

◆ 自句自解 前田 大峰

〈戦時中〉

青田刈りみんなで喰った旨い飯

(前田さん談) 飢えを知っている世代である。富山の山村で戦時下を過ごした。農村だったが、時々  
は供出する前にわずかに蓄えた青田刈りの米を近  
所同士で炊き出して食べた。あの味は忘れられな  
い。それほど旨かった。

大峰さん、ただいま腰痛で入院していて、  
編集子が句をいただきにうかがった際、戦  
争当時のお話をお聞きした時の一句です。

## 一杜さんの句を読んで

岩原茂明

儲けろと駆り立て奈落へJR 岡田一杜

(和句報五一七より)

さて、今回北海道では震度7の地震と台風で、運輸網はずたずたとなった。12日現在ようやく札幌までは貨物コンテナが届いているらしいが、枝線はまだまだだ。一日も早い復旧が必要だが、北海道のJRは赤字で大変なんである。

しかし、よく見ると、旅客列車と貨物列車がそれぞれに走っていて、赤字を拡大しているのだ。

これはJRグループが線路を持っている旅客会社と、その上を借りて走る貨物会社とに分かれているからだが、国鉄分割民営化の以前には北海道の列車は、客車の後ろに貨車を連結して走っていた。

## 報告

## 9・14の取りくみ

## 寺内徹乗

(中見出しは編集子)

こうすれば乗務員もひとりで済むし、機関車をわざわざ用意することもない。もちろん、今では電車やジーゼルカーが多いし、旅客駅から貨物ヤードまで離れている、牽引力が心配、かもしれない。しかしそれは基幹路線は貨物列車で、枝線は貨客混合列車でとすればいい。

そんな思いを抱かせた句である。

今年の鶴彬の命日(9-14)には高松の浄専寺で、鶴彬墓碑建立式があり、参列者とマスコミ合わせて約五〇人ほどが、浄専寺前の歩道に所狭しと集まっていました。

## ◆ 9月14日の取りくみ ◆

### 鶴彬墓碑建立式典 第20回鶴彬碑前祭 鶴彬没後80周年記念講演会

【紹介】1946年仙台市生まれ。いしかわ教育総合研究所所長。元北陸大学教員。日独の戦争・戦後反省、欧州移民・難民に関心。『大東亜聖戦大碑』撤去の会」事務局長。著書：『統一ドイツの苦悩』『ドイツ二つの過去』など。



「ドイツの鶴彬」を講演していただいた田村光彰さん。

鶴彬のお墓は盛岡にあります。墓を守ってきた盛岡の喜多さん（鶴彬の兄の息子の妻）が高齢になり、喜多さんと交流のあった城戸さんも高齢になったこととあり、顕彰会の幹事会で、盛岡の墓から分骨してもらい、高松に二つ目の墓を立てようという話になりました。そして今年七月、顕彰会の代表者が盛岡に出向き、分骨式を行い、八

〇年ぶりに故郷高松に帰えり、新しくできた鶴彬墓碑の前で供養が行われました。鶴彬を顕彰する会の前会長は、鶴彬の遺骨に「お帰りなさい」と声をかけました。

墓碑（第2のお墓）は浄専寺の境内に入つてすぐの所、「胎内の動き知るころ骨がつき」の句碑の横にあります。機会があればお参りして下さい。

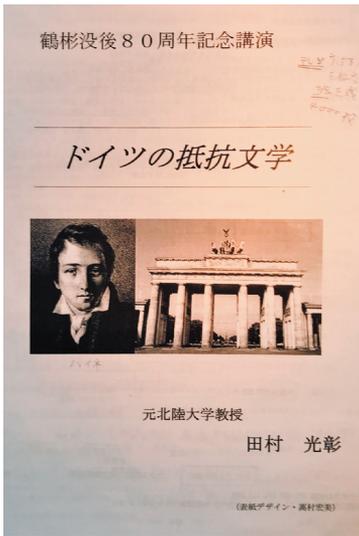
### 田村先生の講演「ドイツの鶴彬」

続いて、第20回、鶴彬碑前祭（画像）。最後は、鶴彬没後八〇周年記念の講演として、田村光彰先生（元北陸大学教授）ドイツ文学・ドイツ近現代史・日独の戦後補償が専門）に「ドイツの鶴彬（ドイツの抵抗文学）」というテーマで話をしていただきました。田村先生と私は、今年の鶴彬のシンポジウムと尹奉吉（ユン・ボンギル）の国際学会などで知り合いになりました。

毎年の鶴彬忌の碑前祭では、ドキュメント映画を見ることも多いのですが、今年は鶴彬没後八〇年ということもあり、田村先生に「ドイツの鶴彬」というタイトルで講演をお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。

## 「ドイツの鶴彬」というタイトル

私が「ドイツの鶴彬」という風変わりなタイトルにしたのは、ドイツにも鶴彬のようなレジスタンス文学があったに違いないという私の仮説によ



田村先生の本文 19 頁にもなる詳細な資料。

るものです。そこで私が田村先生に「ドイツでも、鶴彬が日本の軍国主義に抵抗したように、ナチス政権に抵抗した詩人がいたのでしょうか？」とお聞きしました。すると田村先生はあっさりと「日本より、たくさんいましたよ」という答えが返ってきました。これを教えてもらおうべく私は「ドイツの鶴彬」という講演の企画をしました。広告では「ドイツの鶴彬」にしましたが、当日の資料には「ドイツの抵抗文学」にしました。

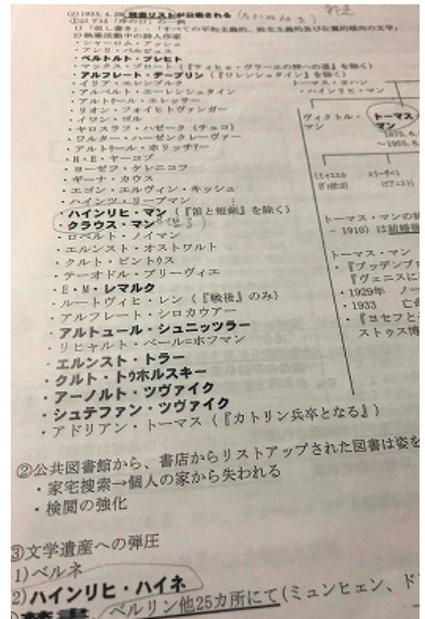
講演の2日前、田村先生から一九ページに及ぶ講演資料が届き、その量にも驚いたのですが、中身もびつくりさせられました。その晩、急いで妻と私で表紙のデザインを考え、前日(準夜前)に妻に手伝ってもらいコンビニで四〇部印刷し、準夜明けの当日の朝、資料を製本しました。四〇部は多いかと思いましたが、人が集まりました、ギリギリセーフでした。

田村先生の講演では、ドイツの近現代史の基礎から始まりました。当時のドイツは、もつとも民主的なワイマル憲法という先進的な憲法があり、進んだ民主主義国家でしたが、ヒトラーという独裁者の政権を生み出しました。麻生太郎のいう「ナチスの手口から学べ」というのは、どういうことなのか。現代の日本に照らし合わせた解説もありました。

## レジスタンス作家がたくさんいた

田村先生は、ナチス政権に抗ったたくさんの方のドイツのレジスタンス作家の名前を挙げました(写真)。一〇〇人以上はいます。中にはヒトラーを批判し、強制収容所に送られて、ノーベル平和賞を受賞しながら授賞式に行けず、獄死した人(オシエツキー)もいます。

私にとって。名前も聞いたことのない人ばかり



です。抵抗文学の作家たちは、ネットワークでつながっていたそうです。日本の抵抗文学と言えば、鶴彬以外で有名なのは、作家・小林多喜二、詩人・中野重治、詩人・森山啓などいますが、一〇〇人も挙げられません。日本とドイツの国民性なのかもしれません。ドイツ人の反骨心とパワーは、日本人の比にはならないと私は思いました。

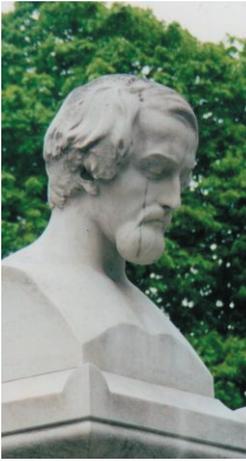
## ハインリッヒ・ハイネ

ドイツの国民的詩人にハインリッヒ・ハイネ(1797-1856)がいます。ナチス政権下で抵抗文

学を展開し迫害されていた詩人や作家たちも、ハイネを尊敬していたようです。

ナチス政権下の多くの詩人や作家は、亡命先で発表されたか、強制収容所の中で密かに書かれ、密かに持ち出され、ドイツ国外で発表されたものだそうです。

田村先生は、「ドイツの鶴彬を一人挙げるなら、ハイネです」と語りました。



(右) ニューヨーク、ブロンクス区ハイネの記念碑 (左) モンマルトルの墓地にあるハイネの胸像

「本を焼く者は、やがて人間を焼く」

ハイネなら、私も名前くらいは知っていました。ゲーテやシラーと並ぶドイツロマン派の詩人で、ラブロマンズを詠んだ人だと、私は勝手にイメージしていましたが、これは偏見だと私は学びました。ハイネは、王権に抗った風刺詩人で、監視・弾圧され亡命生活を強いられた反骨の詩人でした。ハイネが亡くなって約八〇年後にヒトラーは独裁者になり、ヒトラーは真つ先にハイネを焚書にしました。ハイネは「本を焼く者は、やがて人間を焼くようになる」と語りましたが、予言どおり、ヒトラーは何百万人という人間を殺し、焼きました。

ハイネを熟読し理解していた鶴彬

そのハイネを鶴彬は熟読し、その神髄を理解

し、高く評価していました。田村先生は「鶴彬全集」を精読し、鶴彬がハイネを「風刺的リアリズム」と高く評していたことを見逃しませんでした。これはドイツ文学に疎い私は、完全に見落としていた部分です。要するにハイネは、ヒトラーに抵抗したドイツの詩人・作家だけではなく、鶴彬本人にも影響を与えていたことになります。これは、全国の鶴彬研究者にとっても新発見だと思います。

## ヒトラーに協力したハイデッガー

田村先生は、ハイデッガーについても、紹介されました。もともと田村先生はハイデッガーの研究者だったそうです。ハイデッガーは、ヒトラーに抵抗した文学とは対極にあります。

ハイデッガーは、根っからのユダヤ人差別主義者で、ヒトラー崇拝者でした。これは彼の書いた手紙から、はっきり分かっている事実だそうです。

ハイデッガーは、ヒトラーに協力したことは有名な話ですが、自分の講義を受けていたユダヤ人学生がいなくなったことを喜ぶ内容の手紙を弟に送っています。ハイデッガーは、ユダヤ人学生がどんな苦しい目にあったかは、想像できない人でした。しかも、ハイデッガーは戦後、反省をすることで、「戦後はナチ時代よりも、ひどい」といい、「ハイネ通り」と名付けられた道の名にも、不快感を示していました。極めつけは、「自分もヒトラーの犠牲者だ」とか言っていたそうです。

ハイデッガーと対照的なのが、ドイツのヴァイゼッガー大統領だと、田村先生は語りました。ドイツ国民も加害者だったことを認め、「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも盲目となる」と演説をしたことは、有名です。

× × ×

田村先生の講演を、たった四〇人が聞いて終ら

せるのではなく、もっと多くの人に知ってもらいたいです。今年中には、鶴彬を顕彰する会の「はばたき」に田村先生の講演録をまとめたいと思います。(了)

【注：編集子より】かほく市とドイツ・メスキルヒ市は1985年姉妹都市を結んでいる。メスキルヒ市はハイデッガー（哲学者、ナチス党員でヒトラー崇拜者）の生地。かほく市は西田幾多郎（八紘一宇を理論化し戦争に深く関わった）の生地。この二人の哲学者、大変似ている。二つの市に似た哲学者がいて姉妹関係を結んだのは理解できるが、戦時下の哲学者の果たした役割りの理解で両都市が同じものか知りたいものである。

将来、鶴彬が世界的に認知され、ハイネの生誕地・デュッセルドルフ市とかほく市が姉妹都市になればいいですね。鶴彬を顕彰する活動の新しい課題かもしれない。

## 戦争が描かれない戦時下の文学 プロレタリア文学考察の盲点

周 立東爺

鶴彬が活躍する背景にプロレタリア文学運動がある。大正デモクラシーの流れをくみ、社会問題に切り込む作品が登場し、文化運動が隆盛する。川柳に限らず当時の作品が気になっていた。学徒動員された経歴のある著者、戦争責任をテーマに文学を研究している高橋隆治（1925生まれ『昭和萬葉集』編纂に関わる）は『戦時下文学の周辺』（風媒社）で次のように書いている。

「…あの戦争を侵略戦だと知らなかったとは、戦前、戦中世代のだれもが口にする言葉だが、それは「知らなかった」のではなく、「知ろうとしなかった」だけである。私は何度でもくりかえすが、「知ろうとしない」ことはかくも重大な結果を招くものなのである。もつとも、日本のプロレタリア文学は、小

作争議や労働争議をテーマにしたものがほとんどで、反軍・反戦を主題にした作品は意外なほど少数だし、ストリートに反戦に結びつくプロレタリア文学はこの時期にはもやはまったく影をひそめてしまっている。なぜなら、十五年戦争は『蟹工船』が売られていた昭和十五年よりも九年も前に開始されているからである。つまり反戦・反軍を直接の主題とした小説が書かれるとしたら、もつと以前、プロレタリア文学最盛期の昭和四、五年でならなければ遅すぎたのである。」(145p 太字は筆者)

戦時下に書かれた火野葦平の小説『土と兵隊』は戦時文学の数少ない代表的なものであるが、俘虜となった中国の少年兵が書かれている。しかし少年兵がどうなったかの描写がない。火野は戦後、版を新しくし、捕らえた少年兵を含む三十六名全員が殺されていることを復元した。

今後の鶴彬研究に、当時の“戦争”を欠落させたプロレタリア文学運動の盲点から、鶴彬の再評価が必要ではないかと思うのだ。

以下、当時詠まれた短詩を少し紹介する。

南京は陥ちても支那は生きている 左門

号外にまた捷かったなど馴れている 小杉白秋

長期戦神社このごろよく儲け 川村日満子

生きていればまた来る花の春がある 河野幸坊

“生きること”を詠むには覚悟がいったのである。

童子死ねり浅き散兵壕に寄り 片山桃史

憎しみもなく首を打つ日寒く 宮本朱明

味方死ねば敵も死ぬ冬霧寒く 黒沢清

こういう和歌も詠まれている。

くりやべに味噌をときつつ

われはさびし少年の俘虜がうつされてをり

山田あき

## 「在ソ三年 生と死のドラマ」

連載開始までに執筆者の人となりを  
娘・坂本富沙子さんが語る。

…《前回までのあらすじ》父は三年後ソ連から帰ってきた。金 沢で再会した家族。父は某繊維メーカーに勤めるが労働組合が でき委員長に押された。しかし企業閉鎖。育ち盛り四人の子を抱 え「あかた」売りを始めた。早朝大野川で河底をすくう。冬は厳 しいが面白いように売れた。父は、様々な職業を転々としN社に臨時で就職出来たが重労働の現場。次第に仲間達からも信頼を得 ていった。ここでも労働運動が盛り上がり、皆に推され先頭に立 ってしまふ父であった。……

### みんなが来てくれた (3)

坂本富沙子 金沢市（70歳）執筆当時

昭和三十五年、娘三人の我が家にぽつり、ぽつりと見合いの話を持つてくる人が出て来た。身上書を出すと「家のない子はどうも……」と断られることが再三であった。

「人間性よりもまず家や財産なのか。そんな奴等こちらからお断わりだ！」と仲人に怒鳴った父。その思いは私も同じであったが、非戦災都市の金沢では家のあることが当り前であったのだ。家がないという事で人格を無視された現実に私は父より以上に悲しく、腹が立ち、どんな事をしてでもまず「家を建てよう」と父を説得。それまで絶対結婚なんかしないという私の強硬な態度に、「よし」と家族が一致団結して新築へむけ動きだした。

うまい具合に住宅金融公庫の権利を譲って貰えたのを機に、父と私は会社から、姉は婚約者からとそこからから借金をしてローンを組み小さな小さな小さな平屋建を未だまわり中、野原だらけの南新保に昭和三十六年新築した。

ほんの七、八軒だった住宅がどんどん増加、急激に新興団地となった町で、会社を定年退職した父は町会長となり住民と協力して橋づくり、有線放送、保育園、神社など次々と率先して体を使い作り上げ



昭和37.4 父 49歳  
元気一杯でした

ていった。  
だが世の中正論だけでは生きにくい。自分の信念を曲げず一途に町の発展をと行動する父に対して「あの人は売名行為でやっているのだ」「何かうまくことがあるからあんなに頑張るのだ」などの中傷や反対派が出て来た。

「得になるところか持ち出しばかりしていてポロクソに言われ何してるがいね。町会長なんてやめまっし！」と何度も怒鳴る母や私にいつも笑いながら「損得でやっている訳ではない。人間誠実に生きておれば必ず分かってくれる人がいる」と飄々として務めていた。昭和二十三年に金沢へ来てから妻子のために地を這いずりまわり働き続けて来た父。これからは楽をさせてあげられるなと思っていた矢先の昭和

六十年春に肝臓ガン。告知はせず、ひたすら励まし続けていたが一年弱であったと言う間に七十四年の人生を終っていつてしまった。

葬儀の日、団地から離れた遠い葬儀場に全町会の人々が弔問に訪れてくれて、ロビーまで人があふれて満員であった。

私は常に論争をし、その正義感を揶揄していた相手だったが、人間としては大好きだった父の死は大きな悲しみであった。涙の消える時がなかったが「父ちゃん、団地の人皆来てくれたよ。良かったね」と心の中で何度もつぶやいていた。

名もなく貧しい一老人の死にこれ程までに人が参集してくれた。言い表わせぬ感動があった。

「誠実をもって身を持つる限り道は必ず開ける」の父の持論の証がそこにあったのだ。(了)

次号、秋山茂氏の「在ソ三年 生と死のドラマ」の連載開始です。

## 報告あれこれ

## ◆演劇「T・AKIRA」大盛況

9月21～24日五ステージで上演された鶴彬没後八〇年を記念する演劇は、10～20代の若者多数が観劇。「鶴彬を顕彰する会」が呼びかけ、金沢で活動する吉田莉芭氏が企画、劇団「ジヨキヤニーニヤ」が制作・上演しました。戦争も鶴彬もまったく知らない若者がどう鶴彬を描くのか？ 観客動員は？ 心配ばかりでしたが、蓋をあければ大盛況。東京や大阪、名

古屋からも鶴彬関係者が観劇。最終日は当日入場を制限したほど。一五〇枚ほどのアンケートにも「面白かった」「鶴彬を初めて知った」等々。劇の内容は、川柳の句会に参加している鶴田彬なる大企業で働く青年が下請けイジメを命令され、苦悩し、川柳で告発することを決意、解決に至るコミカルな小舞台。小生など高齢者にはチト敷居が高かったかも？ 川柳や鶴彬が若者に広がるきっかけになれば大成功。若者に期待ですね。

## 10月例会「案内」(毎月第4月曜日)

◆10月22日(月) ◆×切:10月20日(土)

◆課題「実」 3句以内 ◆自由吟:5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお寄せ下さい。◆会場:金沢市金石(乞乞「連絡」)

◆句報を持参下さい。例会で話し合います。

●投稿 FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

## ◆編集後記

毎年、8月、9月は鶴彬の命日にちなむ様々な取り組みがあり、9月句会は演劇とも重なり、参集句会は中止し電子句会となりました。皆様ありがとうございました。

(編集子)

和川柳社 ////////////// 金沢市金石東2丁目15-30(渡辺方)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」